

# Topic 52

## 米国テキサス州とオクラホマ州の VCP

- 1) こんなところです
- 2) テキサス州の VCP とオクラホマ州の VCP

---

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週は、テキサス州とオクラホマ州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

### 1) こんなところです

メキシコ国境と接し、米国ほぼ中央を南北にダイナミックに走る大平原(グレートプレーンズ)の最南端に位置するテキサス州。州人口約 2250 万人、人口密度は約 33 人/k m<sup>2</sup>。1845 年 12 月 29 日、28 番目に米国に加入しました。州人口はカリフォルニア州に次いで多く、さらに州面積はアラスカ州に次いで大きい州です。州都はオースティン、州最大都市はヒューストン。ヒューストンといえば米国でも 5 本の指に入る大都市であり、大規模なダウンタウンが形成されています。郊外には米国航空宇宙局 (NASA) の宇宙センターの 1 つである Lyndon B. Johnson 宇宙センターがあることで有名ですね。ここには NASA の宇宙飛行士がトレーニングを受ける無重量環境訓練施設があります。宇宙開発産業だけではありません。地元産業を生かした石油化学工業、航空産業、物流産業が盛んですし、また最先端の医療現場として名高いテキサスメディカルセンターが所在しています。

さて、テキサスから北上すると、そこはオクラホマ州。州人口は約 350 万人、人口密度は約 20 人/k m<sup>2</sup>。1907 年 11 月 16 日、46 番目に米国に加入しました。州都および最大都市はオクラホマシティ。オクラホマ州はピューリッツァー賞受賞作家スタインベックの文学作品「怒りの葡萄」の舞台となった場所です。当時の農民たちの生きる姿を描いたこの物語からなんとなくイメージがつくかもしれませんが、同州は農業・酪農が盛んで、米国の食料自給率を支えています。主な農産物はグレートプレーンズの典型といえる大豆、小麦、綿花。そのほか、天然ガス産出量が米国第 2 位であり、何千何万? というおびただしい数のガス井戸が立ち並んでいる風景が見られます。

### 2) テキサス州の VCP とオクラホマ州の VCP

さて、本題のブラウンフィールドです。テキサス州では環境委員会、オクラホマ州では環境部土地保護課によって VCP が運営されています。両プログラムの類似点は、環境メルマでおなじみになった VCP の基本的な要素 (財政インセンティブ、環境責任保護、土地利用にあわせたリスクベースの浄化目標、Institutional Controls (IC) 利用許可など) が用意されているところです。

テキサス州の HP に、自主浄化プログラムの「対策終了宣誓書」のファイルがありましたので、  
ここでご紹介します。つまりこれが行政からのお墨付きですね。（※以下のタイトルにある  
AFFIDAVIT は宣誓書という意味です。）

**EXHIBIT "B"**  
**TEXAS COMMISSION ON ENVIRONMENTAL QUALITY**  
**VOLUNTARY CLEANUP PROGRAM**  
**AFFIDAVIT OF COMPLETION OF RESPONSE ACTION**

**KEYBOARD**(Applicants Name) (Applicant) has completed response actions, if necessary, pursuant to Chapter 361, Subchapter S, SWDA, at the tract of land described in Exhibit "A" to this certificate that pertains to **KEYBOARD**(Site Name) (Site), VCP No. **KEYBOARD**(VCP NO.) located at **KEYBOARD**(Address) in **KEYBOARD**(City) (**KEYBOARD**(County) County) Texas. The Site was owned by **KEYBOARD**(Owner) at the time the application to participate in the Voluntary Cleanup Program was filed. The Applicant has submitted and received approval from the Texas Commission on Environmental Quality Voluntary Cleanup Section on all plans and reports required by the Voluntary Cleanup Agreement. The plans and reports were prepared using a prudent degree of inquiry of the **KEYBOARD**(Site or partial response action area) consistent with accepted industry standards to identify all hazardous substances, waste and contaminated media of regulatory concern. The response actions for the **KEYBOARD**(Site or partial response action area) have achieved response action levels acceptable for **KEYBOARD**(Land Use; Residential, Non-Residential etc.) land use as determined by the standards of TCEQ. The response action eliminated substantial present or future risk to public health and safety and to the environment from releases and threatened releases of hazardous substances and/or contaminants at or from the **KEYBOARD**(Site or partial response action area). The Applicant has not acquired this certificate of completion by fraud, misrepresentation, or knowing failure to disclose material information. Further information concerning the response action at this Site may be found in the final report at the central office of the TCEQ under VCP No. **KEYBOARD**(VCP No.).

The preceding is true and correct to the best of my knowledge and belief

Applicant

By: \_\_\_\_\_  
Print Name: \_\_\_\_\_

STATE OF \_\_\_\_\_  
COUNTY OF \_\_\_\_\_

This instrument was acknowledged before me on \_\_\_\_\_, 20\_\_\_\_, by \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_  
Notary Public in and for the State of \_\_\_\_\_

一方、両州の VCP における相違点は次のようなものがあげられます。

- テキサス州では、商工業用地のためのリスクベース浄化目標を採用したサイトについては Institutional Controls 実施を義務化している。一方、オクラホマ州では IC 実施にそれほど力が入っていない模様。IC データをくまなく蓄積していくためのシステム構築を考えているとのこと。
- テキサス州では、ドライクリーニング店や石油による汚染サイトのためのプログラムを別途設置している。

・ テキサス州は、もらい汚染についての責任保護の仕組みを確立している。この点についてオクラホマ州がどのような対応をしているか、手物の情報からだけでは分からない。などなど。テキサス州の方が自主浄化およびブラウンフィールド再開発の仕組みづくりに積極的である印象を受けます。もちろん、ブラウンフィールドサイト総数も違うでしょうし、州の政治・経済のプライオリティーも違うので単純比較できません。しかし、これまで環境メルマが見てきた 26 州とワシントン D. C. の自主的浄化活動の仕組みを振り返ってみると、自主浄化の仕組みが上手く回っている州は IC の取り組みに力をいれているという傾向がみえてきます。つまり地下水汚染の浄化が長期にわたるといふ事実を受け入れたうえで(決して汚染をほったらかしにしているという意味ではありません)、人の健康と生活環境を保全していくために環境情報を開示してリスクコミュニケーションをはかり、その開示情報を将来にしっかりと受け渡していける仕組みを考えているのです。そのためには知恵や地道な努力が必要なはず。米国が今まさに作り上げようとしている IC における行政上の仕組み、そしてビジネスは何なのか、そしてそのプロセスを理解していくことは、日本の土壌地下水汚染問題を考える際にヒントを与えてくれるのではないのでしょうか。

来週は、アーカンソー州とルイジアナ州の VCP をご紹介いたします。お楽しみに。

Thanks God It' s Friday!

Thanks God It' s Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 ([t.sato@ers-co.jp](mailto:t.sato@ers-co.jp))

---

坂野のつけたし ([banno@ers-co.jp](mailto:banno@ers-co.jp))

Nickname -▼テキサス州：「The Lone Star State (ひとつ星の州：州旗に☆ひとつ)」「The Beef State (たくさん牛がいる)」「The Banner State (ひらめく旗の下、我に続け！といったところ?)」「The Jumbo State (なんでもデカい)」▼オクラホマ州 (オクラホマは先住民のことばで「赤い人々」)：「The Sooner State (抜け駆け移住者の州；19 世紀後半、未開拓の土地になだれ込んだ)」「The Boomer State (ブーマーの州；19 世紀後半、ブームに乗ってなだれ込んだ)」  
事例紹介 -Houston (ヒューストン)：2000 年 10 月に、ヒューストン市は米国環境保護局 (EPA) のさだめる Brownfields Showcase Communities (以下 BFSC) に選ばれました。BFSC には、国レベル、あるいは州レベルの様々なブラウンフィールド事業の支援策が提供され、そして他の都市のモデルとなるような事例が積み重ねられていきます。支援策は、EPA が関係するものだけでなく、農務省、商務省、経済開発庁、国防省、教育省、エネルギー省・・・ほぼすべての政府機関がパートナーとして関わることになっており、そのために、BFSC には国から技術的、経済的な側面をコーディネートするエキスパートが派遣されています。

この6年間に、市のブラウンフィールドのうち約220ヘクタールが、スタジアムや水族館、ゴルフ場、住宅などに開発され、2500人の雇用を生み出しました。それぞれの具体的な話はスペースの都合でできませんが、以下のウェブサイトからいくつかの成功事例を写真で見ることができます。水族館は400 Bagby、スタジアムは501 Crawford、ゴルフ場は12000 Almedaです。

(<http://www.houstontx.gov/brownfields/gallery.html>)